

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	未来保育 CLUB
所在地	東京都町田市中町 1-31-4NTT 町田ビル 1F
対象クラス	1 歳児 (こあら) 組

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、段ボール・空き箱等を使ってみよう

<テーマの設定理由>

気温が上がったり、雨が降ったりする中で何ができるか考え、室内でできることとして色々な素材を出して子どもたちの行動を観察してみようと思ったことと、その様子を見て次回にどうつなげていけるかを考察したいと思い決めた。

2. 活動スケジュール

2025 年 7 月～9 月

- ・室内活動
- ・戸外活動

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・散歩リュック ・ビニール袋 ・シャベル、バケツ
- ・段ボール (大・小) ・新聞紙 ・ビニールテープ ・廃材と思われるもの (梱包材など)
- ・セロテープ ・シール
- ・空き箱 (いろいろな素材、大きさのもの)

一回目：室内に段ボールをいくつか用意し、子どもたちが自由に使えるよう間隔を開けて置く。

二回目：遊びの様子から段ボール以外の箱も用意しておいてみる。空き箱の大きさは様々である。

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

公園に行ったときに、前回からだいぶ日にちが経っていたこともあり芝が伸びていた。到着して歩き出すと何かが違うと感じたようで、一步一步確かめながら歩き出していた。下を向き芝以外の葉っぱもあることに気づきはしたがそこに興味は持たず、芝の上を走ることを楽しんでいった。

外に出られない日が続き、どうしたものかと段ボールを置いてみると子どもたちが興味を持ち運び始めた。次第に一人が段ボールに入ってみると、それを見ていたほかの子どもたちも段ボールに入り始める。個数が全員分なかったのどうするかと思ってみていると、後から入りたかった子が強引に入ると嫌がるそぶりを見せる。ただ、二人が向かい合って座り目が合うと「ニコッ」と笑い合い一緒にいる空間を楽しみ始める。それを見たほかの子どもたちも、次々に段ボールの中に入り始めたり、周りにシールを張ってみたりするようになる。

遊びの様子を見て日にちを変え、段ボールとそれ以外の空き箱も用意しておくことにした。何も言わず置いてみると今度は一斉に箱を取りに行く。好みの箱があるようで、思い思いの箱に入り始める。「バス」「しゅっぱーっ！」と言ったり「じゃっぽーん」とお風呂に見立てていた。「ゴシゴシしてるの」と保育者に言い、各々で遊びを発展させていた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちには、箱一つあるだけで遊びが展開されていくんだということがわかった。
- ・いつも行くシバヒロなどでも少しの変化（草の長さや落ちていた葉っぱの違い）などにも好年齢でも気づくんだということがわかった。
- ・箱の周りにももっといろいろな素材を置いてみたらまた違った展開があったかもしれないので、次回箱だけではなく同じような環境の中提供するものを変えてみたい。
- ・箱の取り合いなどもなく上手に貸し借りしたり「一緒に」ということが自然に出てきたことに驚いた。
- ・まだまだ模倣が多い中からも少しずつ違う発想が出てきていて興味の違いがわかり見ている保育者も楽しめた。
- ・外に出られない季節で、環境設定を考えなくてはいけないと思うが子どもにとってはなんでもいいということがわかった。